

## 研究概要

### 【研究課題名】

- ♪ EGFR 遺伝子変異陽性の非腺癌非小細胞癌に対する EGFR-TKI 治療効果の検討—多施設共同後向き観察研究— (LOGIK-1104)

### 【研究代表者】

- ♪ 呼吸器科部長 高田 昇平

### 【共同研究者】

- ♪ 呼吸器科医長 吉見 通洋

### 【医学研究及び医療行為】

- ♪ 弁論癌非小細胞肺癌の EGFR 遺伝子変異陽性症例における EGFR-TKI 治療の有効性をレトロスペクティブに検証する

### 【患者さんへ】

- ♪ 2002年7月5日～2011年11月1日までに EGFR-TKI 治療の施行された患者さんへ～非腺癌肺がんにおける上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子変異と EGFR チロシンキナーゼ(EGFR-TKI)治療効果の関連の検討に関するお願い～

肺がんは近年増加傾向にあり、我が国の癌死の第一位となっています。当科でも治療症例は増加しており、手術・化学療法・放射線治療を行っております。近年、従来は一括りにされていた非小細胞肺癌も、その遺伝子型や組織型によって様々な治療効果の差異が指摘されてきました。特に、EGFR 遺伝子変異を有する非小細胞肺癌に対するゲフィチニブ(イレッサ)・エルロチニブ(タルセバ)などの分子標的治療薬(EGFR-TKI)の有効性は非常に高く、現在、進行再発非小細胞肺癌の治療において、EGFR 遺伝子変異検索は重要なものとなってきています。特に腺癌において、EGFR 遺伝子変異有無と EGFR-TKI の効果の関連が確立されてきております。一方、非腺癌におけるその関連は確立されておられません。現在われわれは、肺がんの治療を行っている九州の主要な施設と共同で、非腺癌肺がん患者さんのいろいろな臨床データ(EGFR 遺伝子変異、喫煙指数、各種血液データ、病理結果、病理標本、治療内容、予後データなど)を集めて研究し、非腺癌肺がんにおける EGFR 遺伝子と EGFR-TKI の効果の関連について検討しています。これらの臨床データは、通常の診療の際に記録されるデータであり、新たに採血などの負担をかけて収集するものではありません。患者さんには臨床データ利用の目的と趣旨をご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。このような臨床研究に対してさらに説明を希望される方、また個人の臨床データのデータベースへの収集および臨床研究への利用を拒否される方は担当医師までお申し出ください。